大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル：大阪府立大学における女性研究者支援（第4回講演挨拶）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田間, 泰子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/12693

第４回講演　挨拶

元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル

―大阪府立大学における女性研究者支援―

田間　泰子

女性学研究センターの目的にジェンダー平等、男女共同参画ということがあります。今回の連続講演会の全体テーマは、私たちの生活の中にあるいろいろな壁を乗り越えていくチャレンジということで、「〈越境〉へのチャレンジ」にいたしました。そこで、今日は、これまで女性学研究センターが扱ってこなかったテーマの一つとして、研究者や大学、特に理系におけるジェンダー平等をとりあげます。この分野のジェンダーの問題は、大学という限られた場でのことであり、また特に理系には女性が少ないことから、私どものセンターも取り扱ってきませんでしたし、一般にはあまり知られていない動きではないかと思います。しかし、実はジェンダーの大きな問題が存在するのです。

大阪府立大学は、この春から女性研究者支援ということを始めました。それが、今回の第４回講演のテーマ「〈越境〉へのチャレンジ」と非常に密接に結びついたものになっております。最初に私が少し説明させていただいて、連続講演会とジェンダー平等の流れの中に今回のテーマを位置づけたいと思います。

まず、この女性研究者支援には、そもそも第３期科学技術基本計画（平成18～22年度）や教育振興基本計画（平成20年閣議決定）、経済財政改革

の基本方針（骨太）（平成20年閣議決定）など、理系女性研究者と理系を選択する女性を増やすことを目的に含んだ日本政府の政策的な背景があります。また、これらと連動して、男女共同参画政策として現在第２次男女共同参画基本計画が策定されており、また今年は第３次基本計画の策定年度に当たっています。

第２次基本計画の時に、政府は「社会のあらゆる分野における女性の参画」ということを言いまして、2020年までにあらゆる分野で女性の割合が30%になるべきだということを謳ったわけです。けれども、現実は全然そうはいかないということがあります。特に遅れている分野というのが、今度第３次計画で重点化されるわけです。

ちょうど昨日（７月23日）、計画策定にあたって諮問を受けていた男女共同参画会議が答申を出しまして、第３次計画の策定にあたって、一つの重点分野として、「科学技術におけるジェンダー平等と男女共同参画」を入れ込みました。そのままいけば、府大のこのような取り組みが、第３次計画の中にしっかり入ると考えられます。

そういう動きをジェンダー平等に関する国際的な流れが後押ししています。昨年８月に女性差別撤廃委員会（CEDAW）から日本政府に対して出された「最終見解」でも、やはり研究者における男女共同参画が遅れているという非常に厳しいご批判をいただいております。

さて、具体的な政策としては、理系分野については文科省が「科学技術分野における女性の活躍促進」として、この分野において大きな壁があるということで、様々な支援促進を考えておりまして、「女性研究者支援システム改革プログラム」というのが走っております。そのうちの一つが、大阪府立大学がこの春から取り組むことにした「女性研究者支援モデル育成」という事業です。この事業は、理系の女性研究者の割合を増やすことと、女性を含めて誰もが研究を持続しやすいように大学のシステムを改革することを目的としています。これに申請して、５月に採択を受けたところです。そこで、女性研究者支援センターを立ち上げまして、これまでずっとこの連続講演会を行ってきた女性学研究センターのご協力もいただいて、大阪府立大学において男女共同参画に真っ向から取り組むということを考

えております。

お手元の『平成21年　男女共同参画白書』からのデータを見ていただきますと、日本の現状として、非常に女性研究者が少ないということがあります。特に職階と分野において、非常に女性の進出、参画が遅れている分野があるという現状です。もう少しきちんと見ていただくためには、『男女共同参画白書』や内閣府のホームページを見ていただきたいのですが、そういう現状の中で、大阪府立大学において男女共同参画、ジェンダー平等を目指したいということを考えております。

そのための取り組みについて、「ジェンダーの壁を越える大阪府立大学のチャレンジ」ということで、奥野理事長兼学長にお越しいただいています。そのあと、「女性研究者支援の現在 ―京都大学の取り組み―」ということで、西日本で先進的な取り組みをしておられる京都大学女性研究者支援センターの取り組みを、センター長の稲葉先生にご紹介いただきたいと思っております。